# 多摩市民による市民情報紙 No.1

# 「わたしたちの図書館をなくさないで」

## ができるまで

市内のどこからでも、徒歩10 分以内で行けるところに市立図書館のあるまち。

多摩市はその理想に近いまちでした。多摩丘陵の一角で坂道が多いので、とりわけ子供たちや高齢者にはとっては、重要なことです。

それは、「**多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム**」（2013 年 11 月）で、一転しました。

多摩市立図書館の将来

| | |
|---|---|
| 図書館本館 | 移転、存続 |
| 永山図書館 | 存続 |
| 関戸図書館 | 存続 |
| 唐木田図書館 | 廃止 |
| 聖ヶ丘図書館 | 廃止 |
| 東寺方図書館 | 廃止 |
| 豊ヶ丘図書館 | 廃止 |

## 市民の立ち上がりと市議会の対応

市民情報紙 4 頁の表にあるように、2013~2015 年、廃止予定の図書館 4 館の地域市民が、それぞれ、陳情や要請をして、市議会で、採択または趣旨採択になりました。

## その後の市の姿勢

- 市の政策情報誌「**公共施設の見直しと将来像**」（2015 年 8 月、2016 年 3 月発行）は、2013 年の「**行動プログラム**」の繰り返しで、その以後の市民の声、議会の決議については、全く、触れていません。
- 多摩市教育委員会の「**多摩市読書活動振興計画－市民の読書活動を支える取り組みと土台となる図書館の運営について－(原案)**」（2015 年 12 月）でも、同じく、地域図書館 4 館の縮小・廃止を結論としています。しかし、懇談会や、パブリックコメントで、市民からの強い反対を受けたため、現在修正中で、大幅に、変更されるとは聞いています。

## 地方自治体の図書館は

- 子供、高齢者、障害のある人たちを含めた市民が、広く利用する
- 自分で考え、納得し、解決するための情報を提供する

財政削減のためという理由ではなく、自治体図書館の本来の目的、効用、役割など存続価値の面から、検討されるべきだと考えています。

**個人的には**、食物が肉体の栄養になるように、本は精神の栄養です。知ることに対する要求は、人間の本質的な存在価値に通じるものです。

**社会的には**、知識や情報を共有することで、お互いの違いを乗り越え、相互理解を深めることにつながります。

**図書館組織は**、その両方を支える**知の体系**の骨組みを与えてくれます。

私たちはそう信じて、市の図書館は、駅近くだけでなく、周辺地域にも、存続させることを要求して、その望みを多くの方々と共有したいという思いから、この市民情報紙を発行することにしました。